東京日々新聞

四百九八号

越後の女子ハ其情雪と共ニ淡く帷子地と共ニ薄くれべ
古来より多く娼妓と此國ニ需むと然るニ世移り物
換て今ハ該国狭部の藝娼妓も眞情と以て客ニ遇
する者多と世ニ茲ニ新潟港長濱某の雇ひ藝妓たいと
拍崎早往々て名ハ早ハ不孝の罪の
親もらべ越て加賀路もろう過幾
夜丸旅ニ伏見より浪花ニ出し
野行うち座して食べ山ろうて
固より寒さ懐尽さ詮方も泣
ぶつり死して未来で逢見んと互ひの運の
天満橋既ニ入水と決ぢ道往く
人ニ介抱らるたい再度苦海の
勤め男いやで人力車稼ど追て
ゆ困難と長濱氏ニ聞べ
車夫との縁と曳ぢ古郷へ
帰り錦の帯もらて又りや河竹の
浮一勉めをるせりとぞ

山々亭有人記

人形町 具足屋

渡辺彫栄